風の音を聞け―

55kmの道のりを標高850mまで一気に駆け上がるバイクのコース。時速30km近い平均速度で駆け抜ける選手は、風を切り裂く音を聞く。

熱風到来―

はつかいち縦断みやじま国際
パワートライアスロン大会2014（通称　ウッドマン）

6月29日、このまちに熱い風が吹いた―。
宮島から吉和までを縦断する、スイム2.5km、バイク55km、ラン20km（リレーの部22km）。トライアスロンとしてはミドルクラスながら高低差900mは、日本屈指の難コース。過去最多の758人が参加し、ボランティア約2千人が運営を支え、約7万人の観客が沿道から選手の背中を押した。
選手たちの気迫が、熱い風となってこのまちを駆け抜けた様子をカメラが追った。

写真__1　選手は、過酷なコースとも戦う。リレーの部、team ROOKでバイクを担当した倉本昌司さん（宮島口西）。「地元の方々の応援もあって次の選手にバトンをつなぐことができました」と語る。 写真__2　スイム競技から、バイクへのトランジットへ向かう選手。種目での争いばかりではなく、トランジッションの良し悪しでタイムは大きく変動する。 写真__3　リレーの部、3時間56分49秒で優勝したTeam　Zero（チーム　ゼロ）の皆さん。写真左から森藤潤さん（地御前）、内野健太郎さん、藤川淳さん（宮園）。「楽しく走ることができました」と話してくれた。
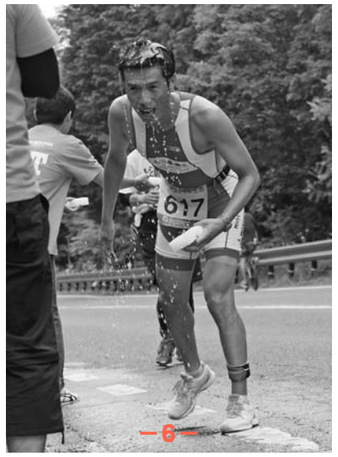
写真__4　両手を上げてフィニッシュラインを越える片足の鉄人、安井正文さん（浅原）。第1回から連続出場。エリートの部女子優勝の庭田清美さん（写真右）らに称えられてのゴール。 写真__5　栗栖のエイドステーションでは、地元栗栖神楽団による舞や神楽の衣装を着けての応援が行われた。写真__6　エイドステーションでの水は、もうひと踏ん張りの力を与えてくれる。歯を食いしばる選手の姿に、観客からは大きな声援が送られる。 写真__7　第1回から連続出場し、4時間25分49秒のタイムで、地元廿日市市最高順位、個人の部12位でゴールした内藤隆行選手。「沿道からの声援が、背中を押してくれました。これからも出場し続けます」と話す。